

句集

塩竈  
小澤克己



流寓・漂泊する人間の  
悲しみと愁いを  
的確な描写としなやかな言葉で  
見事に表現した深遠な新句集

花神社 ● 定価(本体2700円+税)



巨  
い  
な  
る  
一  
樹  
揺  
れ  
た  
り  
去  
年  
今  
年

条  
幅  
の  
禅  
の  
飛  
白  
や  
淑  
気  
満  
つ

無学へとやがて至らむ水仙花

柴門に二人の法師寒月光

捨てさりし故郷捨てきれざる手鞠

眼差しは日ざしのやうに仏の座

沼  
端  
の  
橋  
に  
こ  
ゑ  
あ  
り  
初  
薬  
師

雪  
原  
を  
ゆ  
く  
一  
川  
の  
青  
水  
面

塩  
竈  
や  
氷  
下  
に  
人  
の  
眠  
り  
を  
り

み  
ち  
の  
く  
の  
大<sup>お</sup>熊<sup>やぢ</sup>  
の  
ご  
と  
き  
古  
倉  
庫

新しき嶺あり胸に雪舟蔵ふ

空に涯海に底あり燕来る

ふらここを漕いで漂泊心地かな

愁ひとは春の螢の舞ふごとし

深川に芭蕉の謎を囀れり

亀鳴いて万年橋の番屋跡

墨  
堤  
の  
風  
こ  
ん  
こ  
ん  
と  
春  
稻  
荷

蛙  
と  
ぶ  
本  
所  
深  
川  
繪  
圖  
の  
中

鳥雲に入る紀伊殿の屋敷跡

春雨の新大橋を其角来る

一幹の雄松すらりと夏に入る

舟あらばあらば旅せむ新樹光

ま  
づ  
辿  
り  
着  
き  
し  
草  
加  
の  
河  
岸  
は  
夏

昔  
日  
の  
旅  
に  
玉  
解  
く  
芭  
蕉  
か  
な

薰風の越谷宿に吾山の碑

綾瀬川のぼる舟あり夕薄暑

粕壁か草加か初夏に宿りたる

蕉翁の泊まりし寺や風薫る

関守のひなびしこゑを青嵐

鳩浮巢見て着をさめの黒紬

今  
朝  
秋  
の  
細  
み  
の  
舟  
を  
選  
び  
け  
り

禅  
の  
語  
の  
簡  
素  
な  
り  
け  
り  
白  
芙  
蓉

一文字の道を収めて秋扇

おいそれと逝けぬわけある南瓜かな

夢断ちて断ちてこの世の虫時雨

常の夜の酒一合と衣被

一  
献  
の  
膳  
月  
明  
の  
奥  
座  
敷

う  
ち  
出  
で  
て  
松  
島  
沖  
の  
星  
月  
夜

一湾の眉間に垂れて銀河濃し

松島の月路を帰る帽子かな

今朝冬の太刀となるまで言葉研ぐ

インバネス着て蕉翁の謎解かむ

佳景へと磴千段の冬晴るる

極むるは浄むるに似て冬の磴

寂  
寞  
と  
開  
山  
堂  
に  
冬  
日  
満  
つ

枯  
萩  
の  
括  
ら  
れ  
る  
し  
が  
風  
の  
中

小春日の波山の端  
獸香炉かな

初冬の鈴木清風館跡

巻  
か  
れ  
た  
る  
連  
句  
や  
冬  
の  
奥  
座  
敷

舟  
運  
の  
こ  
こ  
に  
栄  
え  
て  
冬  
紅  
葉



\* 句集  
塩竈しほがま

初版第一刷 平成十八年五月二十七日

著者 小澤克己

発行者 大久保憲一

発行所 株式会社花神社かしんしや